

研究会便り

【HIS (Human-oriented Information Systems) 研究会】

主 査 川野 喜一

+++++

第 4 回 研 究 会

日 時：2017年5月22日(月)14:00-16:00

場 所：専修大学 神田校舎

テーマ：「人間中心の情報システムの要件」

概要：学会の理念である“人間中心の情報システム”の仮説要件について、参加者が持ち寄ったレジメに基づき、人間中心設計のプロセスや視点(view point)・要件定義(view), 情報行動の主体である人間の位置に立脚することの意味について議論した。

第 5 回 研 究 会

日 時：2017年6月26日(月)14:00-16:00

場 所：専修大学 神田校舎

テーマ：「バイオメトリック・データネットワークによるIoHでドローン操縦者のパーフェクトアクセスコントロールを実現」

講 師：室木勝行氏（株式会社SYNCHRO 代表取締役社長）

概要：Bio-Data Network（生体認証）による本人確認とアクセスコントロールによるIoH(Internet of Human)の仕組みと適用事例についてご紹介いただき、個人認証の有効性やセキュリティのリスクと対策の必要性、ドローンアプリケーションの社会的な有効性とリスクについて議論した。

第 6 回 研 究 会

日 時：2017年7月25日(火)14:00-16:30

場 所：専修大学 神田校舎

テーマ：「コミュニティと情報システム — 情報システムの視座の可能性」

講 師：森本祥一氏（専修大学経営学部教授）

概要：講演者らが行ってきた地域再生に向けた活動（南魚沼市辻又集落での活動）を振り返り、「人間関係の本質は情報のやり取りであり、生活の基本にある情報システムは人間活動としてのコミュニケーションである」という情報システム学の考え方に基づく情報システム学の適用可能性、地域活性化の課題や意味・意義についてご講演いただき、議論を行った。

第 7 回 研 究 会

日 時：2017年9月5日(火)14:00-16:30

場 所：専修大学 神田校舎

テーマ：「情報システムの人間・組織的考察～災害情報システムを事例に～」

講 師：畑山満則氏（京都大学防災研究所教授）

概要：巨大災害対応の情報システムの阪神淡路、中越、東日本での適用事例)について、運用者を中心に据えた「使える」情報システムの開発についての考察（人間中心設計の必要性、コミュニケーションの重要性、大規模災害のサイクルと ICT の進展とのギャップへの対応など）についてご講演いただき、人間中心の情報システムの要件についての議論を深めた。

+++++

今 後 の 予 定

引き続き“人間中心の情報システム”の要件についての考察を深めていく。次回開催時期は未定。

+++++

研究会連絡先：HIS 研究会（学会 HP）

以上

【IS 技術者のための psytech* 研究会】

主 査 三村 和子
幹 事 伊藤 重隆
魚田 勝臣
芳賀 正憲

保町) 7号館6階 763教室
テーマ:「パターン・ランゲージの開発」
講 師:岡田 誠氏 ((株)富士通研究所)
概 要:

「旅のことば:認知症とともによりよく生きる」の著者である富士通研究所の岡田誠様から講話をいただき、質疑を行った。

講話では「認知症をテーマにした理由」「パターン・ランゲージとは」「KJ法を用いた開発プロセス」についての説明、そして実際にどのように開発したのかを理解するためグループワークを行った。

当事者および家族へのインタビュー(生命情報)を元に認知症とともによりよく生きるヒントを、パターン・ランゲージ(社会情報)として集約した開発プロセスは、今後構想が明確でない「超上流工程」の標準プロセスとしても展開が期待される。

+++++
【本研究会の目的】

心理的支援に IS を適用した場合にどのような可能性があるのかを検討し、IS 技術者のための Psytech として情報システムモデルを提示してゆく。基礎情報学を用いたアプローチを志向し、Psytech を情報システムとして捉え、そのモデルを人間中心の視点を据えて検討する。

+++++

第 1 回 研 究 会

日 時: 2017 年 7 月 7 日(金)18:30-20:30
場 所: 専修大学神田キャンパス (神保町) 7号館8階 782教室

テーマ:「働く人のための認知行動療法入門」
講 師: 毛利 伊吹氏 (上智大学総合人間科学部心理学科 准教授)

概 要:
認知行動療法 (CBT) の基礎と位置づけ、毛利先生からワークを交え講話をいただき、IT 適用の可能性について質疑を行った。

CBTは当初から疾患別に構造化を志向し、困りごとを抱えた個人に合わせて行うものであるとの毛利先生からの説明があった。一方、IT の適用を想定し、CBT に関わるデータ収集やケースの分析などを行えば、IS 技術者の心理的支援において有効な解決法が想定できる可能性が示唆された。

第 2 回 研 究 会

日 時: 2017 年 9 月 13 日(水)18:30-20:30
場 所: 専修大学 神田キャンパス (神

+++++
今 後 の 予 定

次回以降の研究会については、現在検討中
+++++
研究会連絡先:

kz_mimura@song.ocn.ne.jp
三村 和子(臨床心理士・カウンセラー)
*)Psytech (サイテック) とは:

IT 技術を使った新たな心理的支援。心理学を意味する“psychology”と、技術を意味する“technology”を組み合わせた造語
以上

【情報社会の成育モデル研究会】

主 査 原 潔
幹 事 田名部 元成

+++++

第 8 回 研 究 会

日 時：2017年5月14日(土)13:00-16:00

場 所：横浜国立大学

テーマ：「情報社会と情報システム」

概 要：

情報社会の創発に関連する機能システムとして、情報社会、情報システム、情報技術、情報を想定する案を議論した。各機能システムを特徴づける主題として、ビッグデータ、AI、データ分析技術、IoT、安心/安全、持続性、などがあげられた。

統一した情報社会モデルを構築するのではなく、様々な社会モデルの評価モデルにすべきであるという方向を共有した。

第 9 回 研 究 会

日 時：2017年7月22日(土)13:00-16:00

場 所：シャトレイン横浜 会議室

テーマ：「情報社会の成育モデル」

概 要：

人間活動において「(情報)技術」がどのような影響を与えるかの議論を展開した。

- ・技術が生み出された社会的背景
- ・技術が及ぼす社会（人間）への影響
- ・技術の価値判断の背景となる生産性、効率、倫理などの思考の枠組み
- ・技術をデザインする問題意識
- ・人間の変化（成長？）に対する教育/学習上の問題 等々

第10回研究会

日 時：2017年9月16日(土)9:00-12:00

場 所：ハロー貸会議室（川崎）

テーマ：「情報社会の成育モデル」

概 要：

提示された成育モデル構築のためのフレームワークをもとに議論を行う。

- ・社会観，システム観の変遷の中での変化のあり様を捉えるフレームワークの検討.
- ・モデルと合わせデザイン，インプリメントする活動の場のモデルの検討.
- ・情報システムとしての人間の捉え方，並びに教育/学習の問題.

+++++

今 後 の 予 定

第11回研究会

日 時：2017年11月23日(木)13:00-16:00

場 所：未定

テーマ：「情報社会の成育モデル」

第12回研究会

日 時：2018年1月X日(土)13:00-16:00

場 所：未定

テーマ：「情報社会の成育モデル」

+++++

研究会連絡先：

issj-gm@school-website.jp

以上

【地方自治体における情報システムの利活用に関する研究会】

主 査 池辺 正典 (文教大学)

幹 事 安彦 智史 (仁愛大学)

+++++

2017年度の活動

2017年度5月30日に世界最先端IT国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画が閣議決定されたことにより、地方自治体は、都道府県レベルでのデータ利活用義務と市区町村レベルでのデータ利活用に関する努力義務が課せられることとなった。このため、各地域特性を活かしたデータの利活用が今後も促進されると考えられる。

このような流れを受け、本研究会においては、地方自治体を対象とするための地域特性を判定するための言語資源を取得するために、2016年9月より現在に至るまでTwitterからの地域名をキーとしたツイートの収集を継続的に行っている。収集条件は、藤沢市内5エリア「藤沢、辻堂、湘南台、江ノ島、御所見」、神奈川県内エリア9箇所「川崎、横浜、相模原、小田原、鎌倉、逗子、平塚、茅ヶ崎、寒川」および全国主要6都市「札幌、仙台、大阪、名古屋、岡山、福岡」の地名をキーワードとし、毎日3時間おきに100件のツイートを取得したものである。2017年9月現在での蓄積データは先に示す条件で取得したツイート約500万件となる。データ形式は、テキストデータで、ツイートID、ツイート内容、ツイート時間、ユーザID、スクリーンネームをCSV形式として保持している。

+++++

今後の予定

2017年度の前半で先の条件により取得したツイートの情報についての利活用を今年

度の後半で進めたいと考える。利活用の方法については、地方自治体の情報システムの利活用に関する研究会で議論を進める他に、情報システム学会員で本データに関心のある方が自由に利用できる方へのデータ提供を可能とすることをしたいと考える。

本収集データの詳細については、地方自治体における情報システムの利活用に関する研究会までご連絡ください。

+++++

研究会連絡先：

m_ikebe@shonan.bunkyo.ac.jp

池辺正典 (文教大学)

以上